



外国出張報告書

平成 26 年 4 月 7 日

1. 出張国名 インドネシア
2. 出張月 平成 25 年 10～11 月
3. 出張目的 インドネシア・ソロ川上流域における稲作農家技術・経営調査 : C

4. 成果の概要

インドネシア・ソロ川上流域の棚田（標高 500～600m）で低投入かつ高収量を実現する SRI（System of Rice Intensification）を実践している農家があり、その技術が周辺に普及しつつある。技術普及活動は特に行われておらず、多くの農家は自分が実践している栽培方法を SRI であるとは認識していないが、地域のリーダー的存在である集落長（水利組合長も兼務）の実践を模倣することで、若齢苗の疎植栽培と好気的水管理が普及している。暫定的な収量関数の推計結果（n=49）から、若齢苗を用いることと収穫後の稲わらを持ち出さずに圃場に残置することが高収量に貢献している可能性が示唆された。